

平成 28 年度岩手県二戸保健所運営協議会 会議概要

1 開催日時

平成 29 年 2 月 13 日（月）18：29～20：08

2 開催場所

二戸地区合同庁舎 1 階大会議室

3 出席者

【委員】

藤原淳 委員（二戸市長）
山本賢一 委員（軽米町長）
五枚橋久夫 委員（九戸村長）
稲葉暉 委員（一戸町長）
青木光 委員（二戸医師会長）
岩渕壯之助 委員（二戸歯科医師会長）
金澤悟 委員（二戸薬剤師会長）
逢坂幸子 委員（岩手県看護協会二戸支部長）
坂本隆 委員（岩手県立二戸病院長）
小井田潤一 委員（岩手県立一戸病院長）
春川郁子 委員（二戸市地域婦人団体協議会副会長）
山口金男 委員（二戸地区社会福祉協議会連絡会長）
佐々木孝義 委員（一戸町立小中学校長会会員）
荒川愛子 委員（二戸市商工会女性部長）
永井美保子 委員（JA新しいわて女性部北部支部長）
小寺三枝子 委員（岩手県食生活改善推進員団体連絡協議会二戸支部理事）
田口和子 委員（二戸市保健委員協議会長）
目時栄 委員（二戸地区広域行政事務組合消防本部消防長）

【オブザーバー】

堀野正子 氏（二戸市健康福祉企画課健康福祉支援センター所長兼総保健師長）
於本一則 氏（軽米町健康福祉課長）
吉川清一郎 氏（九戸村住民生活課長）
片野修 氏（一戸町福祉部長兼健康福祉課長）

【事務局】

鈴木保健所長、工藤次長、多賀管理課長、昆主幹兼福祉課長、後藤保健課長、永村技術主幹兼環境衛生課長ほか保健所職員 3 名

※ 事務局から、二戸医師会長の交代に伴い平成 28 年 7 月から青木光委員が任命されたこと並びに扇田浩一委員及び内澤信治委員が欠席であることを説明した。

4 傍聴者

なし

5 議事

※ 事務局から、保健所運営協議会条例第 4 条第 2 項の規定により会長である藤原淳委員が議長となることを説明した上で、進行役を藤原委員に依頼した。

(1) 平成 28 年度の岩手県二戸保健所業務概要について

【事務局による説明】

【議長】

ただいまの説明につきまして、皆さん御意見、御質問等ありましたらどうぞ。

【稲葉委員】

7頁の岩手国体について、適切な指導だったと思うが、その中で弁当取扱い業者の従事者の検査が急に厳しくなったように感じた。もちろん各弁当業者がお金を払って検査体制をとればいいのだが、そのために出費するのは合わない。例えば町内の敬老会は厳しい基準を設けていない、という保健所の前で語弊があるが、ほとんど地元の業者がどなたでも入れる体制をとっているが、今回は町内の3業者しか合致しなかった。厳しいことが悪いのではなく、逆に我々もこれから敬老会等で厳しくした方がいいのはそのとおりだと思うが、今後どのように指導されていくつもりなのか。復興対応はすごく良かったが、その辺の流れを教えていただければありがたい。

【工藤次長】

国体対応については、国体局がオール岩手同じ形で衛生対策をやったというのが一つ。私もあまり大きくなくても地元でどんどん参加してほしいが、業者の選定については私どもは入っていない。ある程度数をこなせるところや配送の関係などで選定があったと思う。こういうところに決まると連絡をもらって指導等やり取りした。実際に、中身で厳しいというのはそのとおりだと思う。やはり50年に一度の国体ということもあって、とにかく事故を出さないよう、理解を得ながら万全の対策をとってもらうようにしたので検査・検便についても従来よりお金もかかったし厳しく対応してもらった。

【鈴木保健所長】

一部営業所などで保健所に強い言葉で相談したりしていたので、国体局として県内全体をやるということを丁寧に説明し、何とか理解してもらったと思っている。地域でいろいろな成功例が出ていることは私どもに届いている。二戸保健所として普段の食品衛生の指導部署ということもあるが、普段の営業許可や安全な食品の提供や自主管理というものを今回の国体に活かそうとしたということで受けとめている。

【稲葉町長】

これからも使い分けていけばいいということか。

【二戸市長（議長）】

今回もJTBが弁当もやったのか。

【工藤次長】

宿泊施設と弁当は、大手の業者に委託していた。

【二戸市長（議長）】

北上の主会場でも盛岡から弁当が届いたということで、なぜ北上の弁当屋を使わず盛岡の弁当屋を使うのだと言っていた。やはり、やる限りは地元の弁当屋を使って欲しい。

【鈴木保健所長】

今日このような会議なので、しっかりと県の担当者に伝えるなどして次期の大きな大会等に向けて活かしていきたい。

【議長】

その他ございますか。

なければ(2)「脳卒中対策の推進について」事務局からお願いします。

(2) 脳卒中対策の推進について

【事務局による説明】

【議長】

ただいまの説明につきまして、皆さん御意見、御質問等ありましたらどうぞ。

【稲葉委員】

図1について、男性脳血管疾患の死亡率が下がったわけだが、一時的なものか、これで大体目途がついたということか、その辺を教えてください。具体的に成果があがったということであれば素晴らしいことだ。

【後藤保健課長】

5年平均だが、1年だけすごく下がった時期があったが、段々と少しずつ下がってきている。またこの後、上がったりにしているところもあるので、短年では言えない。

【坂本委員】

極端に下がったというのは、図3の発症率が若干下って、その上（の図1）が死亡率なので、その辺の発症した人がどの位なのか、亡くなった人はどれくらいなのか、ある年下がったということならば図1は5年分ずつ。これだけでは説明できないと思う。

【稲葉委員】

減塩運動は効果があるのかどうか、一戸町では減塩の一つの方法として乳和食、調味料の一つとして牛乳をうまく使うと出汁になるということで、食育センターで試みに栄養士中心で作ってもらい、小中学生対象に試食会を開いて、学校給食で月に一回位使わせてもらった。抵抗があると思ったらすごく美味しいと。作り方を高校にも指導してもらった。意外と若い世代に好評なので、減塩醤油の次は乳和食を取り上げてもらうと、地域の酪農振興にもつながるのではないかなと思う。

【小寺委員】

私ども岩手県食生活改善推進協議会では、脳卒中脱却のため頑張っているが、スーパーマーケットで減塩の試食などをしていても、弁当を買って食べてみるとすごく塩分が多いということなどについて保健所では指導しているのか。

【鈴木保健所長】

減塩とか手間がかかることで、その分、出汁をとったり味付けを変えないといけない。ある程度のコストで売るために、という話は聞こえてくる。今回、推進員の皆さんがいろいろ取り組みをしてもらった成果が出るのは、おそらく5年後、10年後だと思う。ここ数年の結果がこうやって死亡に反映するのではなく、長野県のデータは15年、20年かかっているの、このデータは2、3年続けて見せてもらいたい。私どもも、もちろんスーパー等の弁当を作っているところに対しても、コストを下げても美味しく作れるということのノウハウを含めて、いろいろな場を設けていきたいと思っている。

【議長】

その他、皆さん何かありますでしょうか？

ないようですので、次に(3)「自殺対策の推進について」、事務局からお願いします。

(3) 自殺対策の推進について

【事務局による説明】

【議長】

ただいまの説明につきまして、皆さん御意見、御質問等ありましたらどうぞ。

【小井田委員】

私も医者が必要なくて困っている困窮者だが、これは財政的に何か措置されているのか。

【昆主幹兼福祉課長】

自立支援相談機関には、二戸市と私どもでそれぞれ委託料という形で、職員の人件費と運営費等々について負担している。

【山口委員】

生活困窮者自立支援制度の支援は、先ほど説明があったように、私ども二戸市社会福祉協議会で委託されてやっている。実際のところ、生活困窮に陥っている方々は自分が生活困窮だと分からない方が結構多い。職員が一番困るのが支援先の確保で、車の免許を持たない、働く意欲が無い、とにかくどうしたらいいのかと。地元の企業などでも、生活困窮の方の再就職をお願いする段階になるが、本当に理解のある企業は4市町村でも少ないと思う。例えば企業をお願いしても、車の免許が無いと送って夕方また迎えに行かなければならないので、1人の困窮者にすごくコストがかかる。先ほど説明があったように人件費はもらっているが難しい事業である。職員は一生懸命やっているのでもう少し効果が出る

まで待ってほしい。

それから自殺の方だが、70代以上から急に増えている。どうしてかという、特に農家のお年寄りには働けなくなると、もう俺の人生終わったと自分で命を絶つ。本当に病気とか生活困窮とか多いが、70代からぐっと上がっているのは、社会から自分が用済みになって働けなくなったということ（本人が）よく言っていたと聞いているので、その辺も対策していかないとならない。長生きする中で、自分が社会から相手にされなくなったというのが一番生きる意欲をなくしているというのは私も感じている。

【鈴木保健所長】

二戸地域では自殺対策推進協議会をすでに開催していて、代表の小井田会長からお話をいろいろいただいている。そこで今まで言われた切り口とは別に、地域づくりや居場所づくり、つきあいが高齢者にとってかなり大切だということも分かっているし、普及啓発等これからますます大切になってくると思うので、保健所としても、関係者や市町村と一緒に、いろいろな視点での取り組みがもっと必要になると思う。

【稲葉委員】

二戸市社協には頑張ってもらっており感謝する。この項目の中で引きこもりだが、これを見事に解消した町が注目されている。秋田県の藤里町というところで、人口3千人位だそうだが、あるきっかけから町の社協が少しずつ良くして引きこもりゼロにした。百数十人だそう。最近、新聞にも載り全国から視察が殺到した。保健所の肝いりで二戸市社協を中心に全市町村の（社協の）会長、町の福祉担当、行政も視察に行っていたら。本当なのかと眉唾のような話。独特のやり方もものすごく工夫したのだろうが引きこもりゼロにしたということでびっくりした。何年かかったかは分からない。もちろん、ここに書いてあるようなことを全部解決できるわけではないが、引きこもりに関して先ほど山口委員がおっしゃったような、外に引っ張り出す手段を、正式な就職じゃなくても居場所を作って、なおかつゼロにした。本当かどうか見てみないとわからないが。

【山口委員】

後でその町名を教えてください。早速見てみたい。私達も引きこもりの方には何人か交流したことがあるが、あの方々は自分を追い詰めるというか被害妄想というか、自分の悪口を言っているのではないかとか周りが悪いとか、人のせいにする。非常に一生懸命やったが職員との間がそれでうまくいかないと思っている。それこそ小井田先生は専門でしょうが、私達にはああいうタイプの人達はなかなか難しい。

【稲葉委員】

秋田県藤里町。白神山地の近くで人口3千人。若い世代の引きこもりだけでなく、40代も多いそう。それも含めて今のところ全員解消した。ぜひ先行して視察に行ってください。

【山口委員】

二戸地区の社協の団体と一緒に連れて行くので、一戸町長も予算を組んでほしい。

【金澤委員】

先ほどあった自分が高齢になって困窮化・貧窮化しているのを気付かないというところだが、実は最近、自己負担金額が大台に乗る人達が多くなってきている。しかも、それが払えていないと生活に困っているのをどこに相談したらいいか分からないと言うので、介護や福祉なのか市町村の方に話すように言うが、確かに自身の危機感が無く、法律で守られているのですんなり通って不便がないような誤解をされているのかという点が見えるように見えないという現実のところを、我々も感じているところである。一つの切り口として、そういった方々を見てこちらから話をするようにしていたので50万円、60万円、中には100万円を超えている方々もいて、これも薬剤師会としては大変なことだが、まずその予備軍が増えているということを周知願いたい。

【山口委員】

先ほどの自殺の件で皆さんに考えてもらいたいが、今自殺を考えている方は、要介護者を支援している家族。本当に家族の方が追い込まれている。社協では介護者の集いという

ことで一生懸命啓蒙しているが、疲れきって悩んで、自分も旦那ももう死んだ方がいいのではないかと。私どもが苦勞している中では、非常にここが、本当に危険度が高くなっているということを皆さんにお知らせしておく。

【議長】

小井田先生ないですか。

【小井田委員】

外来で、患者本人はもちろん病気だが、介護している方がほとんど疲れて泣き疲れて、私、他の人の涙に弱いので、すぐ「あー、いい、いい。」と言って2か月間の猶予を持ってもらって、それで返すというケースが最近増えたと。多いね。

【山口委員】

さまざまな啓蒙とかやっていて、実際に一戸町にもあった。あれも典型的なものだ。

【稲葉委員】

プライバシーのこともあるので詳しく話せないが、本当にお騒がせした。介護の程度は低かったが朝から酒飲んでアル中状態。軽くあたって足も動かない。その面倒をいつまでみればいいのか。多分そんな形で追い込まれたと思う。ただ、近隣の町内には立派な兄弟もいた。社長夫人、県職員。我々もなぜ相談しなかったのか不思議に思った。逆に敷居が高くなりすぎたのではないか。そうなる誰が話を聞けばよかったのか。相談窓口なのか我々の方でもっと行けばよかったのか。周辺の地区の方々も悩んでいて相談してくれればいいのかと思っていた。経済的に考えると、立派な兄弟もいるから貸すとかなら一時的に何とかあったかもしれないが、それが長い将来になっていったとき、自分の将来が真っ暗になったのではないか。皆さんの言うとおりに、これからこういうことが増えてくるのではないかと思う。

【議長】

身近なところで起こる深刻な問題でありますので、この際ですから話しておきたいことがありましたらどうぞ。

軽米町長、この前、暑いとき上にシャツを着ていましたが啓蒙活動の一環ですか。

【山本委員】

うちは管内で（自殺率が）高い方なので、自殺を減らしたいということで職員が、私も毎週木曜日「支えあおう心といのち」のシャツを着ている。議会があれば、議会にも着て行っている。

【議長】

皆さん、後はよろしいでしょうか。ないようですので、次に（4）「高原性鳥インフルエンザ発生時の対応等について」、事務局からお願いします。

（4）高病原性鳥インフルエンザ発生時の対応等について

【事務局による説明】

【議長】

ただいまの説明につきまして、皆さん御意見、御質問等ありましたらどうぞ

【五枚橋委員】

作業は県の方でもしているが村では処分地を探さないという整理だと思うが、私どもがもらっている資料だと、自ら処分場を持っているのは半分ぐらいしかない。処分地は持っているが、そこは木が生えている場所だということを持っていないことにすると、処分地を持っているのはもっと減る。村でも処分地を一応準備したつもりではいるが、仮にそういう農場が出たとして、移動距離はどの位を想定しているのか。うちのように密集して、ちょっと動かそうとするとこっちに来るなという農場は当然出てくる。処分地そばに別の農場があったりするわけだから、あちこちで行政が持っている土地にやっているとかが、現実にはどういうものなのかお尋ねしたい。

【工藤次長】

今のところ県内で発生していないため、事例がないので他県の状況を見ると、青森市で発生した際には、地下水が湧いて場所が適さないということで、青森市の土地をやったと思う。処分・埋却の関係は家畜保健衛生所の担当なので保健所がやっていないため確かなことは言えないが、基本的な考え方は、例えば九戸村なら九戸村の中で探してもらうことになるかと個人的には思っている。それでも難しいとなれば近隣市町村調整となると思う。基本は農場の所有している土地でやってもらうのが大原則で、それでだめなときは公有地にするという流れのようだ。それ以上については私どもではコメントのしようがない。

【五枚橋委員】

村の外に出そうとも思っていないし村の中でやらなければならないと思うが、現実問題として所有地の隣に他の経営している方がいるわけだから、所有地に移動しようとすると同じ鶏舎系列の方なら文句は言えないかもしれないが、違う系列ならちょっと困るという話におおらくなると思う。現実には3分の1位しか自分の所有地に処分地を有していない、残りの3分の2位の方は策がない状態で、今日出れば今日か明日には処分場を探さなければならないということのようなのでどのようにするのか。(担当は)家保のようだが。

【鈴木保健所長】

今の話は他県でも課題がある。岩手県では今のところ発生していないが当然このような課題が起きるといような声を聞いているので、この会議で各市町村長からこのような声があったということをお家畜保健衛生所にお伝えするというごことでご理解いただきたい。

【議長】

それでは(5)「地域医療の課題と取組について」、事務局からお願いします。

(5) 地域医療の課題と取組について

【事務局による説明】

【議長】

一番皆さんが関心のある在宅看護で、課題等に関しては資料5-1、資料5-2に課題等があげられているわけですが、課題解決についてどのくらいスピードアップしていただけるのか、実現するためにはどうすればいいのかということが、おそらく皆さん一番関心があると思います。時間も押し迫ってまいりましたので、御意見等あればどうぞ。

【鈴木保健所長】

もう8時近いので若干時間を延長していただきたい。本文68頁を後で見たいが、地域医療構想が出たとき国が計算した必要病床数が291で現状は593。ということは300床がこの地域は過剰だという誤解があった。昨年度もいろいろな会議で申し上げたが、決していきなり病床数が減るわけではなく、特に二戸地域では3つの県立病院が中心となって、入院で出来ないことはないということをお皆さんに説明した。全体を通じて、この地域は医師確保が最優先課題だと思うのでその点と、最近進んでいる県立病院の病床再編、決して不安はないということをお話してもらいたい。

【坂本委員】

毎回この会で話しているとおり、新聞に出た平均病床利用率というのは、大体7割以下が3年位続くと公立病院ではある程度効率よくやりますと。看護師、スタッフを集めてもただ割り算しなければならないということで、1人入院しても、極端な話10人入院しても夜勤の看護師が3人とかなので、その辺を効率よくやるには、この1年まとめてそういう手厚い看護体制をやったが、少なくとも急性期には決して部屋がないからということはない。ただ、先ほど小井田先生が話したような、介護に疲れたから一時置いてくれというような形は、時々がんの患者にないわけではない。在宅でずっと看ているとどうしても疲れが溜まってくる。そういうときは入院して何週間かみる、それは当然あるわけで、その辺、実際入院が必要か施設があればそこで少しはみられるのではないかと。うまく地域医療のネットワークの中でやって、3つの県立病院だけでなく介護施設等とも連携をとつ

て、どこにいても入院が必要でも全体でみると。入院の問題と誰かがみなければならないというとき、うまく回していけるシステムということやっていけばいいのではないかと。

【小井田委員】

坂本先生のところは急性期を主に担っていただいているから、医者を集約して手術なり急性期の患者を回復させて、それが終わった後に一戸病院あるいは軽米病院で引き受けて回復してもらって退院してもらおうという流れになりつつある。入院が必要な人は必ず入院させているから、入退院数は変わっていないので、ある程度の枠で過剰なベッドを持っていると、マンパワーの分散になるので非常に大変。だから適正な病床という意味で御理解いただきたい。

【議長】

青木先生何かありませんか。

【青木委員】

この地域の特性を考えると、点在する自宅に医者が行ってというのは不可能ではないかと思う。どちらかという、最後の施設に医者が行くように合理的にやらないと難しい。医者を集めると言われても急には集まらないので、できる範囲のことをきちんとやっていくことが大切ではないか。

【議長】

首長さん何かご発言ありましたらどうぞ。特になんかということによろしいですか。

【鈴木保健所長】

次年度は医療計画、そして介護事業支援計画の策定時期になっているので、計画づくりの作業に追われるが、そういった中でこの地域に必要な医療・介護の連携というものをうたっていく必要があると思っている。一つだけ医療でお伝えしたいのは、医師確保が優先課題というのは皆さん分かっている。では地域だけで確保できるか。市町村も含めてかなり努力してもらっているし県でも医師確保対策を精一杯やっている。やはり知事が言っているように、地域医療対策基本法、新たな法律とか全国レベルで地域に医師を派遣し続ける制度も含めて必要だということ、二戸地域から発信していく必要があるのではないかと考えている。まだまだ先の見えない話ではあるが、そういった観点から支援していかないとこれから医師が増えないのではないかと考えている。確かに奨学金を利用した岩手県の医師も派遣されつつあるが、絶対的な解決にはならないと考えているので、次年度の計画策定、介護支援事業計画などでこのような議論を進めていきたい。今日の会議が終わってからでも、後で事務局に意見等お寄せ願いたい。

【議長】

課題等につきまして、せっかく挙がって、課題を把握していると思いますので、是非この課題解決に向けて進んでいただきたいと思います。宜しく願いいたします。

(6) その他

【多賀課長】

最後に一点だけ。今回の5疾病5事業に取り上げられなかったが、地域の課題で認知症の問題があり介護や医療の現場でも権利擁護の問題に絡んで非常に苦労している。この夏、カシオペア研究会でも成年後見制度の研修会を実施したように非常に大きな問題となっている。ここにNPO法人カシオペア権利擁護支援センター理事長の小井田先生がいらっしゃるの、一言その辺りについて御意見を伺いたい。

【小井田委員】

カシオペア権利擁護支援センター理事長の小井田でございます。各首長さんには毎年ご支援いただきましてありがとうございます。お蔭様で成年後見制度は大分周知されて参りまして、利用者も本当に増えております。認知症の高齢者の方々の財産の身上監護ということで、一層推し進めてまいりたいと思っておりますので宜しく願いいたします。認知症の問題については一戸病院の精神科で、認知症疾患医療センターという名称を掲げては

いませんが、実質同じようなことはやっております。それから、現在、一戸町といろいろ協議をしており、認知症の方々のニーズを拾おうとか認知症になる前の予防教室をやりたいとか、様々な活動しております。各首長さん方も是非大いに相談していただいて、様々な活動を展開していきたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

【議長】

他に御意見等ございますか。他になければこれで議事を終了させていただきます。皆さん御協力ありがとうございました。